

令和5年度 さいたま市立道祖土小学校
第2回学校運営協議会 議事録

【日 時】 令和5年11月10日（金） 13時20分～15時00分

【場 所】 道祖土小学校 3階 低学年図書室

【議事録】

○開会

○委員長あいさつ

○校長あいさつ

- ・埼玉県教育委員会発表「2022年度の県公立学校における問題行動・不登校調査の結果」について（新聞記事より）
- ・市立小・中学校における校内教育支援センター（S o l a る一む）の開設について
- ・さいたま市子ども会議で決定された「心を元気にする4つの言葉」について

○教室訪問・授業参観（校内巡視）

○熟議「地域でどのような子どもを育てていくのか、そのために何を実現していくのか」

- ・学校運営協議会の課題として、熟議が深まらないことが挙げられる。本校では、コロナ制限下でも行事が復活している。ふるさと意識を高めるためには、地域でよい思い出となるような行事が重要である。校訓「明るく 仲よく たくましく」では、児童は「明るく」「仲よく」はできているが、「たくましく」は本校に限らず全国的に見ても失われつつあるように思う。
- ・学校の雰囲気は明るい。タブレット端末やプロジェクターを積極的に活用している。子どもたちも大人もコロナを経験してどのように進んでいいかわからない不安を抱えている。
親子の関係が変わってきた。子どもとの関係が希薄なケースも見受けられる。年齢に合わせての成長ができていない。小学校での複雑な人間関係でいじめ、不登校も出てきてしまう。誰かに頼むのは大変なことである。子どもたちにしてあげることが少なくなった。どこから手を付けるか迷っている。さいどっ子まつり等で子どもたちは救われる。
- ・先生へのお願いするのは、本来「学習面」である。親が子どもと接しているの時間は長いので、かかわりを深めるべきである。行事等で我々がコミュニティを引っ張ることで、積極的に子どもとの対話ができるのでは

ないか。コロナの制限が解除され、さいどっ子まつりをきっかけで横のつながりが増えていく。お互いに知っている人同士は、あいさつもし合う。やれる範囲で増やしていく。

- ・子どもたちと触れ合う場は少ないので、行事を通して進めていきたい。しかし、ノロウイルス等の問題で現在踏み出せない状況もある（特に食品を扱う催し等）。子ども会等も復活していきたいが親が慎重である。PTAや育成会との協力が必要となる。
- ・原山地区の文化祭はすばらしい作品が揃い、三世代で見学にくる人が多かった。各校工夫して出品し、親は感動していた。ステージ発表等昨年度の倍の人数が来た。展示など地域の方々が行ってくれた。今後どのように参加意識を高めていくのか考える必要がある。
- ・子どもたちの授業の態度はよかった。教室をまわって挨拶をよくやっていた。挨拶をすることは勇気があること。行事を通して、家庭でも挨拶を進めて行ってほしい。
今、核家族化が進んでいるためか幼い子が目立つ。人間関係の希薄になっている。チャレンジスクールと学校・地域の連携ができればよい。
- ・コロナ禍で3～4年行事が中止となった。行事のやり方や段取りを忘れてしまう状況が生じている。教職員の働き方改革と地域の取組について、バランスを取りながら進めていく必要がある。

校長より

- ・本校では、土曜をできるだけ授業日に当てて、教員もPTAや地域の行事等に参加しやすいように工夫している。金管バンドの行事では、教職員が手伝いや支援等に自主的に参加していた。
コミュニティスクールは、自分の学校と子どもの実態に応じて、道祖土小学校のオリジナルを作っていくことが一番大切である。

○いじめに関する状況報告について（教頭より説明）

○令和5年度学校評価について（教頭より説明）

○諸連絡

- ・第3回の運営協議会は、令和6年2月16日（金）13：20～である。

○閉会